

事務事業名	全国スポーツレクリエーション祭開催事業				担当	教育委員会 スポーツ振興課 指導係		
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			電話番号	0285(84)2811		
施策名	04	生涯スポーツ・レクリエーションの振興			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 年度～）		
予算科目	1.一般会計	10.教育費	5.保健体育費	1.保健体育総務費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	平成23年度に栃木県が当番県となり開催された第24回全国スポーツ・レクリエーション祭のうち、真岡市ではバウンドテニス大会を実施した。全国スポーツ・レクリエーション祭は、文部科学省、日本体育協会、日本レクリエーション協会、全国体育指導委員連合と開催都道府県の共催で開催されていた。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 24年度実績 実行委員会の開催。栃木県バウンドテニス協会及び真岡市体育指導委員等と連携を図り、大会を実施した。大会の運営は、真岡市教育委員会職員や各種団体の協力をお願いした。大会開催前にバウンドテニス教室を開催した。 25年度計画	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア	交付金額				2,665		
	イ	実行委員会開催回数				3		
	ウ	バウンドテニス教室開催回数				20		
エ								
オ								
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 実行委員会、大会役員、市民	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア	実行委員会の人数				34		
	イ	大会役員の数				239		
	ウ	市民数				82126		
エ								
オ								
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 全国からバウンドテニスの代表選手が集まり交流を深める。真岡市での全国大会開催ということで、全国への真岡市のPRの機会となる。バウンドテニス教室を開催し、バウンドテニス愛好者を増やす。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア	大会参加者数				266		
	イ	大会参加チーム数				42		
	ウ	大会参加県数				41		
エ	教室参加人数				198			
オ								
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 生涯スポーツの振興	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア	スポーツ・レクリエーションをしている割合				54.8		
	イ							
	ウ							
エ								
オ								

(2) 総事業費の推移		単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	3,227	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	600	0
	一般財源	千円	0	0	2,665	0	
	事業費計(A)		千円	0	0	6,492	0
	人件費	正規職員従事人数	人	0	0	3	0
		延べ業務時間	時間	0	0	2,000	0
		人件費計(B)	千円	0	0	8,484	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	14,976	0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	全国スポーツ・レクリエーション祭は、いつでも気軽に、レクリエーション・スポーツ活動を楽しみ、交流を深めようと、1988年に第1回大会が山梨県で開催され、以来、各都道府県持ち回りで開催されており、平成23年度は栃木県が当番県で開催されることになり、数ある競技の中から真岡市では、バウンドテニス競技を担当することになった。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	全国レクリエーション・スポーツ祭は、平成23年度の栃木県開催を最後に終了することとなった。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 実行委員会を必要に応じて開催し、全国からの代表選手が交流を深め、全国への真岡市のPRの機会の場となった。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 平成23年度に栃木県が当番県となり開催された第24回全国スポーツ・レクリエーション祭のうち、真岡市ではバウンドテニス競技を担当することになったため、大会開催は絶対条件であった。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 実行委員会を必要に応じて開催し、全国からの代表選手が交流を深め、全国への真岡市のPRの機会の場となった。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 全国大会として成功裡に終了することができた。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 全国レクリエーション・スポーツ祭は、平成23年度の栃木県開催を最後に終了することとなった。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない 類似事業はない。
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 大会運営のための必要最低限の経費である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最低限での人件費で対応している。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 実行委員会は、市の交付金及び県の補助金により運営された。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							